

3 ヒアリング調査

(1) 北海道恵庭市立図書館

「読書コミュニティ」のまちづくりをめざす恵庭市
小中学生のための読書活動サポート体制と学校図書館ステップ UP プラン

【学校図書館に対する支援体制】

1 学校図書館を市立図書館が所管

平成 15 年に図書行政の一元化を図るため、学校教育所管の学校図書館を市立図書館が所管する組織体制を構築する。

2 専任学校司書の配置

平成 16 年に市内小学校全 8 校、平成 18 年には市内中学校全 5 校に学校司書を配置した。学校司書は、恵庭市第 1 種非常勤職員（図書館）としての身分を持ち、週 29 時間の勤務を行っている。主な業務は、司書教諭を補佐し、学校図書館で図書の分類・整理、貸出・返却、購入・廃棄計画などの専門業務を行うとともに、児童生徒の調べ学習に対応した図書の提供や本への興味を持たせるための読書活動の取組を行っている。また、読書活動推進対応を目的とした児童支援加配による「読書 TT」が小学校 1 校に配置しており、学校司書と連携を図りながら年間の読書指導計画を策定して、各学年における学校図書館を利用した教科学習の推進に取り組んでいる。

3 学校図書館ステップ UP プランについて

恵庭市は、【子どもの読書活動の推進に関する法律】に基づき、平成 17 年に「恵庭市子ども読書プラン」を策定し、その具体プランとして「学校図書館ステップ UP プラン」が同年に策定されている。主な計画としては、「読みたい本がある図書館づくり」や量的な整備から質的な整備を目的とした「図書館の環境整備」等がある。また、「学校図書館図書購入予算の増額措置」として、平成 17・18 年度の 2 か年で、総額約 4,000 万円の図書購入費を計上し、各学校の学校図書館費（小学校 8 校、中学校 5 校）に充てたことにより図書が大幅に整備された。さらに、平成 19 年度から市立図書館と学校図書館とのネットワーク化・蔵書の共有化を図るため、双方の PC のオンライン化と配送システムの拡充（配本車の巡回運行）を開始した。

※学校間及び図書館との図書資料の貸出等については、各学校・図書館の PC 端末で図書の検索や貸出の予約を行い、週 4 回市内全学校の図書館を配本車が巡回運行（シルバー人材センターに委託）している。

4 その他

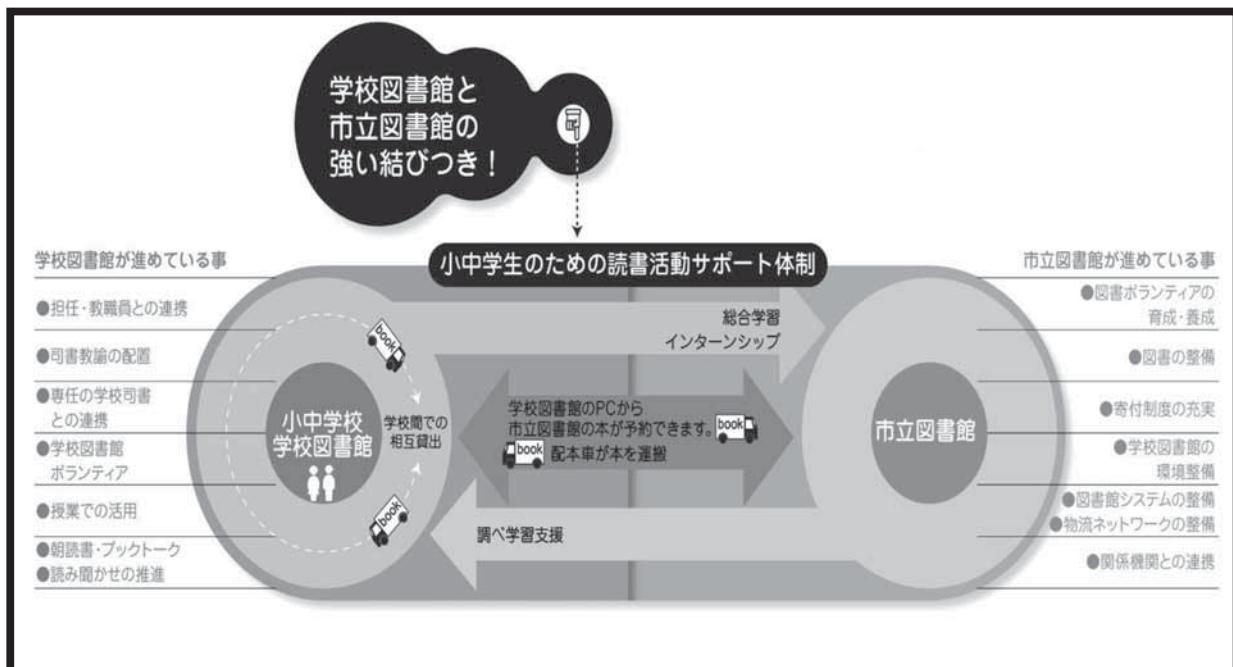
市立図書館では、学校図書館とのネットワークシステムの活用促進のため、配本システムマニュアルを全学校に配布しているほか、教職員向けの利用ガイド（読書のまちづくりを進める恵庭の学校の取組）を全教職員に配布し、図書館利用の啓発・連携事例の提供なども行っている。

また、学校ぐるみの読書活動推進のため、全校に設置されている図書ボランティアの育成や研修会などを実施したり、校長会内にプロジェクトチームを発足させ、読書アンケートなどの生活実態調査を行ったりしている。

さらに、平成 18 年度からマッチングギフト制度を導入し、個人・団体からの寄付金と同額を市から拠出する仕組みをつくって図書資料の充実に充てている。

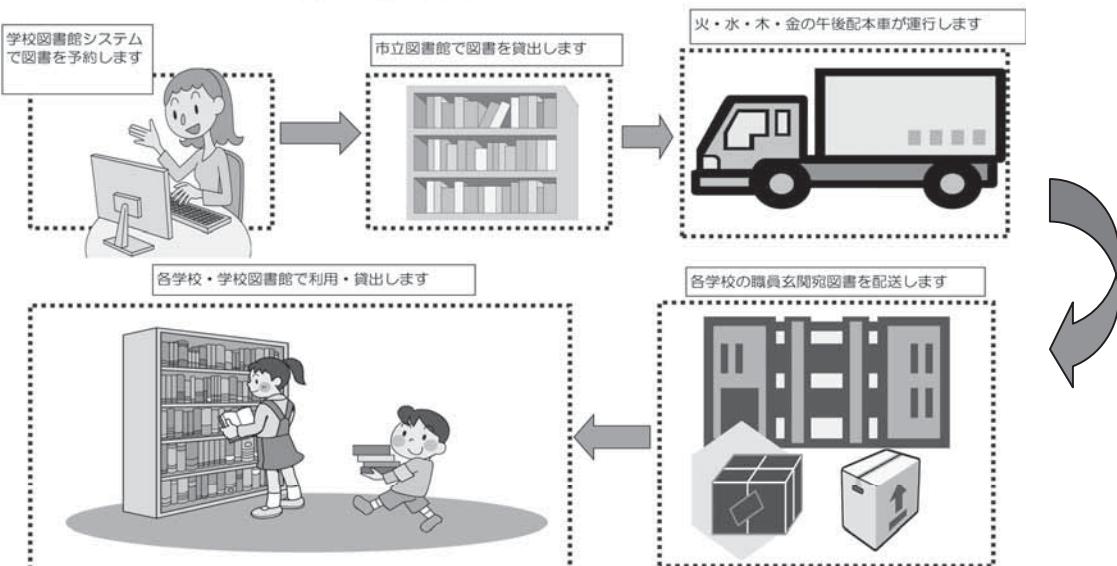
【参考資料】

(1) 恵庭市の市立図書館と学校図書館の連携関係模式図



(2) 恵庭市の配本システム模式図

学校図書館 配本システム イメージ図



【施設データ】

館名 : 恵庭市立図書館（本館）

所在地 : 〒061-1373 北海道恵庭市恵み野西5丁目10-2

TEL : 0123-37-2181 FAX : 0123-37-2184

設置年 : 平成4年 設置主体 : 北海道恵庭市

ホームページ : <http://www.city.eniwa.hokkaido.jp/>

入館者数 : 約31万人 利用者数 : 約12万2千人

蔵書数 : 約27万3千冊 貸出数 : 約61万2千冊

※データは全て平成21年度のもの



(2) 栃木県宇都宮市立図書館
家庭・学校・地域・企業総ぐるみの「子ども読書のまち宇都宮」を目指す取組
を推進する第2次宇都宮市子ども読書活動推進計画

【連携の経緯】

1 宇都宮市子ども読書活動推進計画（第1次）（平成16～平成20年度）の策定

平成16年7月に「市立図書館と学校図書館を核とした子ども読書活動の推進」を基本方針の一つとする宇都宮市子ども読書活動推進計画（第1次）を策定した。

その中で示された重点事業とその成果については、

- (1) 学校図書館整備事業→学校図書館図書標準をほぼ達成（達成率98.6% 平成19年度）
- (2) 市立図書館と学校図書館のネットワークの整備→市立図書館と学校図書館を結ぶ物流体制の確立（平成18年4月）
- (3) 学校図書館を担う人材の適正配置→学校図書館司書業務嘱託員の全校配置（平成18年4月）
- (4) 休日等における学校図書館の活用→長期休業中の学校図書館開館（小15.3日、中17.3日）
- (5) 読み聞かせボランティア研修会・交流会の実施→年2回実施

であった。

2 みや図書館サービスプラン（宇都宮市図書館機能・サービス向上計画）の策定

平成20年5月に策定した「みや図書館サービスプラン」の中で、「小中学校との連係機能強化と学校や教職員への支援」を重点施策の一つとし、5つの重点事業を掲げた。重点事業については以下のとおりである。

- (1) 学校向け団体貸出の充実
- (2) 学校希望図書の貸出サービスの向上
- (3) 学校との情報交換体制の改善
- (4) 教職員の教育活動支援の充実
- (5) 学校図書館担当者への研修支援の充実

3 宇都宮市子ども読書活動推進計画（第2次）（平成21～平成25年度）の策定

現在は、第1次計画の成果と課題を踏まえ、「もっと。ずっと。グンと。読書を通じて育む“豊かな心”と“人との絆”子ども読書のまち宇都宮」を目標とした第2次計画の展開中である。主な活動指標として、

- (1) 子どもの1か月の読書量→小学生20冊、中学生9冊、高校生3冊
- (2) 市立図書館と学校図書館の図書の総貸出数→6,000,000冊
- (3) 読書ボランティアの活動人数→1,800人

などを掲げ、具体的には

- ①団体貸出サービスの充実
- ②学校図書館支援ボランティアの育成
- ③学校図書館支援ボランティア研修会・交流会の充実
- ④学校図書館司書業務嘱託員の授業支援の充実
- ⑤ブックリストの作成・充実

などに取り組んでいる。

【連携事業の実際】

1 組織・体制

学校との連携に係るスタッフは以下のとおりである。

☆宇都宮市教育委員会学校教育課職員（研修等担当）

☆宇都宮市立図書館 館外奉仕グループ 職員4名、非常勤及び臨時職員5名（いずれも兼務）

※図書館と教育委員会事務局が連携して学校図書館の運営を支援している。

2 連携事業の主な内容

（1）学校巡回図書

〔概要〕 小中学校の各学年毎に読書や学習の参考になる本をセット（1箱40冊）にして、全市立小中学校及び私立中学校3校、計96校に1セットずつ配達する。

〔開始〕 平成18年度

〔巡回方法〕 各小中学校を集配車が週1回巡回する。

〔図書の内容〕 ・小学校では学年別に楽しい絵本や読み物、授業の参考になる本など

・中学校では学年別に、読み応えのある本、教科の参考になる本など

〔利用方法〕 学校図書館または各教室などに置く。校外への持ち出しあは禁止している。

（2）学校への貸出

①学校希望図書

〔概要〕 授業や読書の時間に使用したい図書を図書館の蔵書からテーマに基づいて選択し、貸し出す。

〔開始〕 平成18年度

〔対象〕 市内全小中学校

〔貸出期間〕 1か月

〔貸出冊数〕 1テーマにつき40冊まで〔最大5テーマ、200冊まで〕

〔申込方法〕 配送希望日の1週間前までに、申込書にテーマ、学年、教科、冊数を記入しFAX等で申し込む。または、図書館HPの蔵書検索画面から予約する。

〔貸出・返却方法〕 学校巡回図書サービスの集配車により、発送と回収を行う。

②学校パック貸出

〔概要〕 図書館が学習や読書のテーマについて選んだ図書を、1箱40冊以内でセット（学校パック）にし、箱単位で貸出を行う。

〔開始〕 平成20年2月

〔対象〕 市内全小中学校

〔貸出期間〕 1か月

〔貸出冊数〕 最大5箱まで

〔申込方法〕 図書館HPの「小中学校支援メニュー」のブックパック一覧画面から予約する。

〔貸出・返却方法〕 学校巡回図書サービスの集配車により、発送と回収を行う。

③団体貸出

〔概要〕 学校が読書の時間に使用したい図書を来館して選んだ後、長期の貸出を行う。

〔開始〕 昭和 56 年度

〔対象〕 市内の小中学校等

〔貸出期間〕 6 か月

〔貸出冊数〕 500 冊まで（調べ学習用の図書は含まない）

〔申込方法〕 来館の 3 日前までに、テーマ・冊数を図書館に申し込む。

〔貸出・返却方法〕 貸出・返却とも借り受ける団体が配達する。

（3）学校図書館担当者等研修（市教委学校教育課が主催し、市立図書館が協力）

①担当者研修

〔対象〕 司書教諭・学校図書館主任

〔回数〕 年 4 回

〔内容〕 講演会、実践報告等

②学校図書館司書業務嘱託員研修

〔対象〕 学校図書館司書業務嘱託員（学校図書館司書）

〔回数〕 年 10 回

〔内容〕 学校図書館運営、蔵書管理ソフト実技、ブックトーク実技、図書修繕実技等

③学校図書館活用研修

〔対象〕 司書教諭・学校図書館主任等、および学校図書館司書業務嘱託員（学校図書館司書）

〔回数〕 年 1 回

〔内容〕 実践報告・講話

（4）学校読み聞かせボランティア研修

①小学校読み聞かせボランティア研修会

〔回数〕 年 2 回

〔内容〕 読み聞かせの基本、本選び等

②交流会

〔回数〕 年 2 回

〔内容〕 各学校での活動状況報告等

（5）学校訪問おはなし会

平成 21 年度は、小中学校のべ 13 校を訪問した。参加児童生徒数は 4,803 人である。この事業は図書館職員のほか、ボランティアの協力を得て実施している。

（6）調べ学習への協力

総合的な学習の時間での調べ学習に対して、協力を実施している。平成 21 年度は、のべ 9 校、319 名を対象に行われた。

【参考資料】

(1) 各学校に配布された利用マニュアル

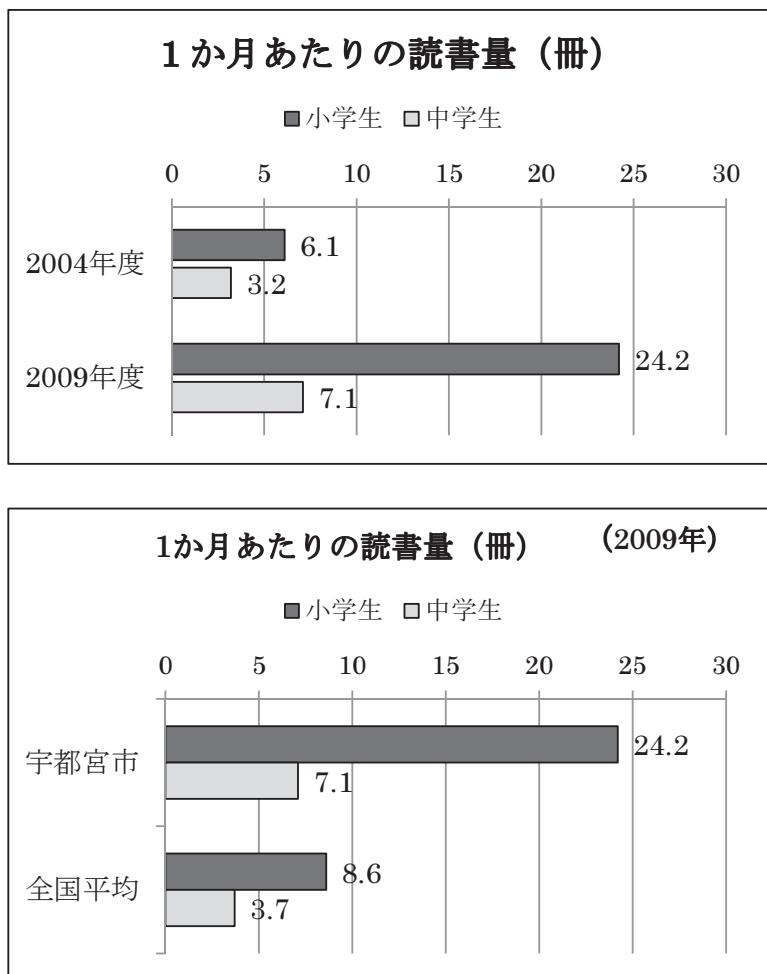
学校図書館の市立図書館利用マニュアル
平成21年12月現在

1 学校巡回図書サービスについて（該当校のみ）
2 学校への図書貸出について
(1) 学校希望図書貸出
(2) ブックパック貸出
(3) 団体貸出
3 宇都宮市立図書館ホームページ 小中学校支援メニューについて
(1) 利用にあたっての注意
(2) 小中学校支援メニュー利用の仕方
4 図書館の学校支援サービスQ&A

申込書・報告書等（複写して使用してください）

宇都宮市立図書館 館外奉仕グループ

(2) 読書量の変化



館名 : 宇都宮市立図書館（本館）

所在地 : 〒320-0845 栃木県宇都宮市明保野町7番57号

TEL : 028-636-0231

FAX : 028-639-0740

設置年 : 昭和56年

設置主体 : 栃木県宇都宮市

ホームページ : <http://www.lib-utsunomiya.jp/>

貸出者数 : 約30万4千人

蔵書数 : 約59万2千冊

貸出数 : 約129万4千冊

※データは全て平成21年度のもの



(3) 千葉県市川市学校図書館支援センター
公立図書館と学校を結ぶネットワークシステム
—生きる力・夢や希望を育む学校図書館を目指して—

【連携の経緯】

- ・昭和 54 年 : 学校司書配置を開始する。
- ・平成元年 : 市教育センターで「公共図書館と学校とを結ぶネットワーク事業研究員会議」が発足。
- ・平成 4 年 : 学校司書・読書指導員の全校配置完了（非常勤が 8 割）
- ・平成 5 年 : 図書相互貸借システム物流実験開始
- ・平成 6 年 : 図書相互貸借システム物流実施（隔週 1 回、小 10 校、中 4 校）
- ・平成 7 年 : 図書相互貸借システム物流、毎週 1 回に増便、学校図書館用ファックス、コンピュータ配置開始
- ・平成 8 年 : 図書相互貸借システム物流、毎週 2 回に増便
- ・平成 11 年 : 学校図書館蔵書管理検索システム導入開始、図書相互貸借システム物流実施（全小中 55 校）
- ・平成 13 年 : 学校図書館調べ学習用コンピュータ 5 台設置（全小中 55 校）
 - ：「読書指導員」を「学校図書館員」に名称変更
 - ：図書相互貸借システム物流実施（全幼小中養 8 園 56 校）
- ・平成 14 年 : 学校図書館蔵書データベース化完了（全小中 55 校）、市川市学校図書館チェックリスト作成
- ・平成 15 年 : 司書教諭の全校配置完了（全小中養 56 校）
- ・平成 19 年 : 学校図書館蔵書データベース化完了（特別支援学校）
 - ：学校図書館支援センター設置（支援スタッフ配置）

【連携に係る組織・体制】

1 学校図書館支援センター

学校図書館支援センターは生涯学習センター内（中央図書館と同じ建物）にある、教育委員会教育センターの一部署として位置づけられており、指導主事 1 名、支援スタッフ 2 名（非常勤）が配置されている。主たる職務は、図書館と学校の連携に係るコーディネート役で、ネットワーク事業には主導的な立場で関わっている。また、連携事業に関する指導・助言を学校に対して行う立場にある。

2 学校

全校に司書教諭が配置されているが、専任はない。また、学校司書も小中 55 校の全校に配置されているが、うち 11 名が市の常勤職員で、残り 44 名は非常勤職員（1 年契約）である。常勤職員には異動がある。また、学校司書は主に相互貸借の発送作業等にあたるとともに、TT にも加わることがある。司書教諭と学校司書の連携が重要である。

3 図書館

中央図書館では、児童・青少年サービスグループの 8 名（うち 1 名非常勤）で「こどもとしょかん」を運営し、併せて学校支援・児童サービス部門を行っている。ネットワーク事業用に約 8,000 冊の蔵書を管理（ネットワーク用図書購入費は年 25 万円程度）しているほか、中央図書館の蔵書で対応できない場合は、市内 6 つの公共図書館の中で融通して対応している。貸出冊数には特に上限を設げず、1 か月で貸出を行っている。配送当日は、5 名のスタッフが約 1 時間を費やして選書や配達業務を行っている。

図書館独自としては、学級文庫貸出として、各小学校に 120 冊（低・中・高学年用に各 40 冊）、大規模校には 2 倍の計 240 冊ずつの貸出を行っている。（半年で入れ替え）

【連携を支えるシステム】

1 メーリングリストの運用

図書資料等の貸出・相互貸借用に関する依頼メールの共通書式があり、教科・学年・図書名ないし学習内容等を明記して発信すると、図書館および各学校の図書室に送信され、関連する書籍等が物流システムを用いて利用日までに届けられる。図書館および全校に発信するため、必要数以上に集まることもあるが、メールのやりとりを何度も繰り返す煩雑さを避けるため、基本的には1回の送信で行っている。

図書館に対しては、配送日の前日までに申し込めば対応してもらえる仕組みとなっている。緊急で配送日を待てない場合は、教職員用のカード（貸出制限なし、1か月まで）が交付しており、教員が直接借りに来るシステムとなっている。

2 年間利用計画の作成について

ネットワークのスムーズな運用のため、教育センター（学校図書館支援センター）では、各校に「学校図書館年間利用計画」の提出を求めるとともに、それらを一覧にまとめ、各学校・図書館に配布している。これにより、同じ図書の貸出が集中しそうな場合を事前に把握することが可能になり、学校においては単元の入れ替え、図書館においては貸出数の配分などを考慮することが可能になる。また、どの単元でどのように図書資料を活用した授業展開が行われたのかなど、情報交換会の資料としても活用されている。

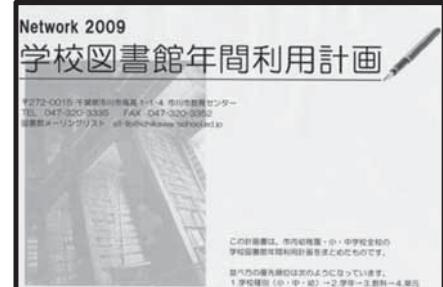
3 司書教諭・学校司書の研修・情報交換等について

司書教諭対象の研修会が年1回、学校司書対象の研修が年6回組まれている。その他、合同の研修会・情報交換（ネットワーク会議）が、年3回実施されている。

【参考資料】

(1) 年間利用計画

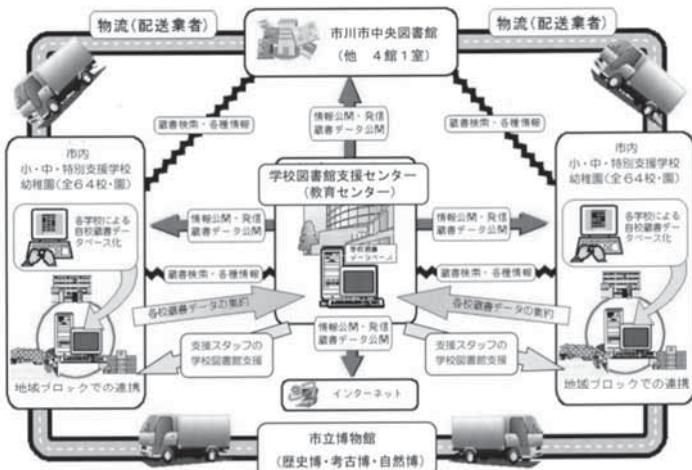
市内全校（幼稚園・小学校・中学校）の月別・教科別・学年別の利用計画が一覧にまとめて、全93ページの冊子となっており、全学校図書館に配布される。



(2) ネットワーク模式図

開かれた図書館 -市全体で一つの大きな図書館に-

公共図書館と学校とを結ぶネットワークシステム



週2回（水・金）、Aコース（右回り）・Bコース（左回り）で全64カ所（8園56校）を巡回する。配送業者に委託しており、職員は同行しない。配送カードと配送用の袋を行い、物流を行っているが、このシステムにより学校間の相互貸借もスムーズになり、現在の年間貸借数の約70%が相互貸借によるものである。学校間で解決できないものが市立図書館に委託される形となっている。

(3) 相互貸借システムガイドブック



各学校・幼稚園・公共図書館の所有する図書資料については、市内小中高等学校・幼稚園の児童・生徒・教師のための共有図書資料と認識し、相互貸借を実施する。そのシステムについて、スムーズな運用を図るために、写真・図解入りでわかりやすく解説したパンフレットを作成・配布している。



市川市学校図書館支援センター（市川市教育委員会教育センター内）

所在地：〒272-0015 千葉県市川市鬼高1丁目1番4号 市川市生涯学習センター3F

TEL : 047-320-3335

FAX : 047-320-3352

ホームページ：<http://www.city.ichikawa-school.ed.jp/index.html>

館名：市川市中央図書館

所在地：〒272-0015 千葉県市川市鬼高1丁目1番4号

TEL : 047-320-3346

FAX : 047-320-3351

設置年：昭和25年

設置主体：千葉県市川市

ホームページ：<http://www.city.ichikawa.lg.jp/library/index.html>

利用者数：約40万6千人

蔵書数：約72万冊

貸出数：約173万4千冊 ※データは全て平成21年度のもの



(4) 兵庫県立図書館

－高等学校等を中心とした学校サポートプロジェクト－

【兵庫県立図書館学校サポートプロジェクトの概要】

1 対象

県内高等学校、中等教育学校、特別支援学校

※県立図書館の蔵書が、主に高等教育以上の専門書であり、高等学校等の調べ学習に対応できるため、対象を上記の学校とした。

2 開始時期

平成 22 年 6 月から開始

3 開始の経緯

図書資料の利用拡大のため、学校との連携をとおし、団体貸出、出前講座、図書館利活用講座などを活用してもらうことを目的として開始した。特に、団体貸出については、そうしたサービスがあることや利用方法を知らない学校が多く、そのことが利用数の少なかった原因と推測されたことから、従来の市町図書館への貸出システムを学校へと拡大した。

4 内容

(1) 団体貸出（テーマ別セット貸出）

調べ学習や教材研究にすぐ活用できるよう、教科・分野ごとにテーマを決め、司書が選定した 30 冊程度のセットを用意し、対応している。

※現在、当初提示した 47 テーマの他、学校からのリクエストにより新たに 25 テーマを追加している。

※アンケートによりニーズを把握するとともに、さしかえ可能の柔軟な対応をしている。

(2) 出前講座

読書活動の推進及び情報収集能力の向上を目指し、学校で実施される研修会に、職員を講師として派遣している。また、学校対象講座のテーマ・内容のリストを作成し、学校に配布して周知を図っている。

(3) 図書館利活用講座

長期休暇中に、高校生対象の図書館利活用講座（3 回 参加者数のべ 30 名）を実施している。

5 システム等

従来の団体貸出の規定を踏襲することで、図書館側は運用しやすく、学校側も利用しやすくなっている。

※FAXによる簡単な申込みシステム、貸出期間 1 か月

※送料無料（5 箱まで→佐川急便の宅送便を利用、往復 800 円）

6 成果と課題

(1) 成果

※団体貸出

23 年 2 月 15 日現在（開始から 8 か月の実績） 2,044 冊（70 箱）程度

対象校 161 校中 21 校の利用、リピーター校が多い（アンケート結果は、大変好評）

※出前講座

H21 2 校 → H22（23 年 2 月 15 日現在） 8 校（のべ参加者数 360 名）

(2) 課題

※6 月の開始時に校長会で説明はしたが、一般教員の周知までには至っていないのが現状である。

※従って、周知拡大が課題であるが、校長会、初任者研修等で啓発・広報を行うとともに、次年度の教育課程編制時に利用計画を盛り込んでもらえるよう、利用計画書のフォーマットを準備し、司書研修会にて作成・提出の依頼を行う。

7 今後に向けて

団体貸出については、教員の教材研究等にも対応できるようにしていく。また、一層の利用拡大を図るために、20 人の司書が担当制で図書の選定等を担当し、貸出リストの充実を図る。「兵庫県立図書館活用年間計画表」を H23 年 2 月に各学校に送付し、次年度の活用計画を立案してもらうとともに、あらかじめ貸出や出前講座の準備・調整を行うようにする。さらに、出前講座については数を増やし、図書館利活用講座の充実を図っていく予定である。

(1) サポートプロジェクトのチラシ [一部抜粋]



兵庫県立図書館



学校サポートプロジェクト

兵庫県立図書館では学校との連携を強化し、団体貸出、出前講座、図書館利活用講座などをより活用していただくために、兵庫県立図書館学校サポートプロジェクトを実施します。対象は県内高等学校、中等教育学校、特別支援学校です。

①団体貸出(テーマ別セット貸出)

- 調べ学習や教材研究にすぐ活用できるよう、教科・分野ごとにテーマを決め、30冊程度のセットを用意しています
- テーマ別 国語：「平安時代の衣食住」 師範体育：「教師体」 表情：「色彩」
学校行事：「学校行事アイデア」など 47テーマ
- 準備しているテーマ以外のセットの作成や、本の追加などができます
- 学校へ直接お届けします（概ね5箱まで送料無料）
- 貸出期間 1ヶ月



学校向けにチラシを作成・配布し、図書館が学校に対して行えるサービスを周知しています。学校側にとっては、連携を視野に入れる契機となるとともに、連携推進への重要な情報となります。

(2) テーマ別セット貸出のリスト

テーマ別セット貸出 教科・分野別リスト				
* 下記以外のテーマでセット貸出をご希望の場合は、別にセットを作ります				
教科・分野	セット番号・テーマ			
国語	1源氏物語	2平安時代の衣食住	3近現代の歌人・俳人	
数学	4数学の歴史	5数学と美	6確率	

教科・分野別に約70の貸出セットが作成されています。

↓

源氏物語セットの内容

1. 源氏物語

No.	書名	著者名	出版者	出版年	請求記号
1	「源氏物語」の時代を生きた女性たち	服藤 早苗 著	日本放送出版協会	2000	367.2/577
2	源氏物語絵巻	佐野 みどり 著	小学館	1991	708/155/10
3	豪華〈源氏絵〉の世界 源氏物語	秋山 虔 監修 田口 栄一 監修	学研	1999	721/117
4	源氏物語絵巻を読む 物語絵の視界	久下 裕利 著	笠間書院	1996	721.2/48
5	宮内庁楽部雅楽の正統	『皇室Our Imperial Family』編集部 編集	扶桑社	2008	768.2/48
6	源氏の作者紫式部	稻賀 敬二 著	新典社	1982	910.23/69

館名 : 兵庫県立図書館

所在地 : 〒673-8533 兵庫県明石市明石公園1番27号

TEL : 078-918-3366

FAX : 078-918-2500

設置年 : 昭和49年

設置主体 : 兵庫県

ホームページ : <http://www.library.pref.hyogo.jp>

入館者数 : 約17万人

蔵書数 : 約56万5千冊

貸出数 : 約7万9千冊

(5) 兵庫県伊丹市立図書館（本館）

－合同研修会等を通じた図書館と学校図書館担当者との連携強化－

【合同研修会等の実際】

1 担当者会や読書指導員研修会の開催システム

教育委員会（学校教育部）が主催。年度当初に会の年間計画が示されるため参加しやすい。旅費は学校が負担している。市域があまり広くないため、集まりやすいという背景もある。

※読書指導員：読書教育推進事業に係わる読書指導員設置要綱に基づき、市内全小中学校に配置されている非常勤職員。おもに、学校図書館の整備及び読み聞かせ等の読書教育の推進、貸出・返却及びレファレンス等を行っている。

2 担当者会や読書指導員研修会の内容や方法

(1) 担当者会

月1回、市立図書館で開催

市立図書館と連携し、推薦図書の選定・市内文集の編集・読書感想文の書き方講座・学校図書館活動紹介 等を実施している。

(2) 指導員研修会

毎月第1水曜日、市立図書館で開催

新刊紹介・情報交換・おすすめ本の紹介 等を実施している。

3 開始の経緯

20年ほど前から、推薦図書の選定のための集まりがあり、それが現在の合同研修会等の基盤となっている。連携が強化された背景として、伊丹市教育ビジョン（平成19年度～平成28年度）「ことば文化都市伊丹の創造」に基づく伊丹市子ども読書活動推進計画（平成19年度～平成28年度）など、市の教育施策があり、また、図書館側は、近年、小中学生の図書館利用が減り、学校を介して本を勧める必要性を感じていた等、学校側と図書館側に連携を推進する機運や意識があった。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・学校への団体貸出数が増えた。
- ・推薦図書リストを持って来館する子が出てきた。
- ・本が好きで、本を読む子が増えた。
- ・会場が図書館のため、研修会の参加者には具体的に本を媒体として研修を行える上、市立図書館司書も参加しやすい。
- ・図書館の利活用について（調べ学習に適した本の紹介等）の具体的な情報交換により、学校側のニーズに応えるため、連携につながりやすい。

(2) 課題

- ・幼稚園との連携も進めていこうとしており、平成23年度には「いたみっこえほん100選」が作成される予定となっている。

5 今後に向けて

- ・待つ図書館から発信する図書館への転換を図ることが重要である。（伊丹市では広報誌にも必ず情報を載せるなどの取組をしている）
- ・連携は、一方だけが努力してもうまくいかない。したいと思っているけれども、その方法や計画がわからない時は、とりあえずお互いに顔を合わせてみることが大切である。

【参考資料】

(1) 伊丹市子ども読書活動推進計画

[表紙]



[連携をうたった内容]

第4章 効果的な推進のために

1. 学校・家庭・図書館などの連携・協力

学校、図書館、関係部局、ボランティア、民間団体などからなる、子どもの読書活動を推進するための連絡会を設置し、定期的に会議を開催しながら「伊丹市子ども読書活動推進計画」進捗状況の確認や意見交換を行い、新たな事業などについて協議します。また、学校・家庭・図書館などの連携、協力を円滑に推し進めるための調整なども行います。

(1) 学校と図書館の連携・協力

団体貸出等による資料援助

学校の調べ学習、学校での読書活動などに必要な図書・資料を、団体貸出等により支援を行います。また、「NIE (Newspaper in Education) 一教育に新聞を一」における新聞記事などのメディア情報の収集・提供について、互いの連携・協力を検討します。そして、求められた資料をより円滑に、効果的な提供ができるシステムの検討、整備に努めます。

学校と図書館のネットワーク整備

学校図書館のコンピュータ化を図り、学校図書館間や市立図書館との情報通信ネットワークによる、図書情報が相互に利用できるシステムなどについて、学校・図書館関係者の連携・協力のもと、実施に向けて取り組みます。

学校図書館教育担当者・読書指導員と図書館との連携強化

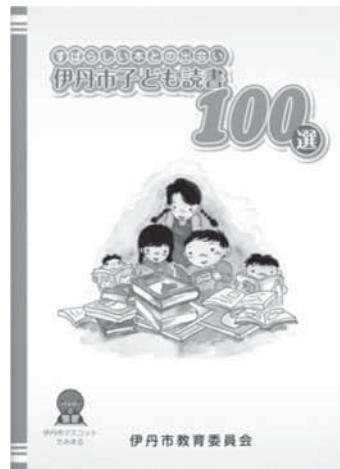
従前から行っている「夏休みいせん図書」選定や、勉強会、団体貸出などの連携・協力に加え、合同研修会や子ども読書懇話会の開催など、連携を強化します。

ボランティア、図書館司書の派遣

学校での図書館教育や読書活動推進のために、ボランティア・図書館司書の派遣を行います。

-17-

(2) 読書指導員が選ぶおすすめ図書100選



(3) 研修会の年間計画

2010年度 伊丹市学校図書館教育年間計画案			
月日	行事予定	活動 内容	
5/1 3	担当者会① (読書指導員会)	メンバー紹介 会の内容 係分担 推薦図書の選定	研究①
6/ 7	担当者会②		研修①(廃棄・新刊購入について)
7/ 21	担当者会③ (15:00~)	読書感想文について	研修③(読書感想文の書き方)
7/ 28	担当者会④	読書感想文書き方講座	研究③
	研究大会	全国大会・県大会	

平成22年度読書指導員研修会年間計画		
毎月 第1水曜日予定 市立図書館 3階集会室		
月 日(曜)	研 修 内 容	備 考
1 4月 28日 (水)	各校自己紹介 今年度の推進について	
2 5月 19日 (水)	新刊紹介・情報交換 おすすめ本の紹介	
3 6月 2日 (水)	新刊紹介・情報交換 おすすめ本の紹介	
4 7月 7日	新刊紹介・情報交換	

館名 : 伊丹市立図書館（本館）

所在地 : 〒664-0898 兵庫県伊丹市千僧1丁目1番地の1

T E L : 072-783-2775

F A X : 072-784-8091

設置年 : 昭和26年

設置主体 : 兵庫県伊丹市

ホームページ : <http://www.itami-library.jp/>

貸出者数 : 約1万7千人

蔵書数 : 約29万8千冊

貸出数 : 約51万冊 ※データは全て平成21年度のもの



(6) 愛知県名古屋市鶴舞中央図書館

愛知県名古屋市図書館協議会・児童図書選定協議会

－「市立図書館と学校図書館との連携のあり方について」（名古屋市図書館協議会作成）に見られる連携事業の実際－

【名古屋市図書館協議会と児童図書選定協議会】

1 名古屋市図書館協議会

(1) 概要

昭和 44 年 3 月 27 日の名古屋市図書館協議会条例により設置される。事務局は、名古屋市鶴舞中央図書館に置かれ、庶務を行っている。学校関係者、社会教育関係者、学識経験者などから、10 人の委員が選出される。

平成 21 年度は、4 回開催し、主に、名古屋市図書館中期計画・名古屋市図書館サービス計画における重点事項（目標）・運営状況の評価と改善などについて、審議を実施した。

(2) 「市立図書館と学校図書館との連携のあり方について」

平成 21 年 1 月に名古屋市図書館協議会は、小中学校図書館と名古屋市図書館の連携を推進するために、「市立図書館と学校図書館との連携のあり方について」を発行した。

その中で、市立図書館と学校との連携事業の現状については、「図書館司書がブックトークに出向いた校数・件数・人数の推移」、「図書館訪問実施の校数・件数・人数の推移」、「職場体験学習実施の校数・件数・人数の推移」について、過去 4~5 年のデータをもとに分析するとともに、それぞれ 1 校ずつの小中学校に出向き、図書館活動の調査を実施した事例について報告している。また、市立図書館と学校・学校図書館との連携の問題点と課題を 5 点明らかにし、さらに、これからの連携のあり方（後掲）について、3 点を挙げ、連携に向けた具体的な事業展開計画を示すなど、一つの地方自治体が、自らの設置する市立図書館と学校図書館の連携を推進するために、独自の調査を実施し、連携の方策について明らかにしている点が注目される。

2 名古屋市児童図書選定協議会

(1) 概要

昭和 31 年 1 月に発足した。協議会の庶務は鶴舞中央図書館が行っており、校長、幼稚園教諭、小中学校教諭、有識者、教育委員会職員から 37 名以内の委員が選出され、主に、小中学校向け図書の選定と選定図書の普及に関する審議を行っている。

(2) 「選定児童図書目録」の発行

平成 21 年度には、11 回の選定会を実施した。平成 21 年 1 月から平成 22 年 3 月までに選定された図書は 105 点で、それらをまとめた「選定児童図書目録（平成 21 年度版）」が最新刊となっている。

学校（幼稚園）・行政・図書館のそれぞれ異なる立場の委員が、年に何度も顔を合わせて情報を交換・共有する場となっており、連携を推進していく上でプラスの要素となっていることは想像に難くない。

※また、選定児童図書目録とは別に、名古屋市教育委員会では、平成 21 年度に「なごやっ子のおすすめ 100 冊（小学生版）」、平成 22 年 4 月には「なごやっ子のおすすめ 100 冊（中学生版）」を発行するとともに、HP でも紹介している。

【連携事業の実際】

1 連携事業

(1) 学校訪問

子どもの頃から本に親しむ習慣を身につけてもらうため、職員（司書等）が直接、小・中学校に出向いて、ブックトークや読み聞かせなどを行う事業を展開している。この事業は、平成15年度から教育委員会の「その道の達人派遣事業」として実施されている。平成21年度は市内の小・中学校など117校975クラスに対して、のべ635回の派遣が実施された。

(2) 図書館訪問

図書館の見学や調べ学習などの目的をもって、学年単位、クラス単位での来館が多い。各々の求めに応じて、館内見学ツアーやストーリーテリングの実施など学習の援助を行っている。

平成21年度は市内の小・中学校、のべ94校の訪問があった。

(3) 職場体験

職業体験学習の場として、主に中学生を受け入れ、カウンター業務など図書館の仕事を実際に体験してもらっている。この就業体験を通じて、図書館をより身近な施設として捉え直す機会にもなっている。平成21年度は市外の中学校や高校も含め、66校（のべ87回）の生徒251人が体験した。

(4) 団体貸出

学校（小・中・高）に対しては、調べ学習に使用する資料や授業に必要な資料の貸出を、最大300冊、3か月（HPでは「1か月程度」となっている）を上限に実施している。平成21年度には、のべ113校、747回の利用があった。

2 その他、子ども読書活動の推進（「名古屋市子ども読書活動推進計画」の事業）

(1) はじめての本との出会い事業

保健所の乳幼児健診時に絵本の紹介や読み聞かせを行うもので、今年度は絵本の紹介冊子を3種類作成し、全保健所の健診時に配布した。また、楠図書館をはじめ5館でボランティア養成講座を開催した。

(2) 子ども図書館大使

市内の小学生15名を「子ども図書館大使」に任命し、図書館の仕事を体験し、学校へ戻って図書館の魅力を伝える活動を行った。（平成19年度より実施）

3 これからの連携のあり方について（課題）

(1) 人の連携を組織する

・人の連携の組織化 •インターネットの活用

(2) 資料を共有化する

・情報化の推進 •インターネットの活用
・物流システムの確立

(3) 情報の共有と蓄積と公開

・インターネットの活用 •資料の充実

※インターネットの活用について、図書館HPには「図書館が学習のお手伝いをします～学校の先生方へ～」というメニューが設けられ、Q&A方式で連携に関する疑問に答えている。

【参考資料】

(1) 名古屋市選定児童図書目録



(2) 名古屋市図書館HP

子どもページトップ > 学校の先生へ

学校の先生へ

- * 地域の施設見学に図書館へ行きたいんだけど
- * 「公害」の本を探しているんだけど、学校には本が少なくて
- * 学校で読み聞かせなどをしてほしい
- * 学校図書室にどんな本を選べばいいか、参考にしたい
- * 施場体験をさせたい
- * ブックトーク＆読み聞かせ～その道の達人派遣事業～

施設見学の一つに、図書館を選ばれたら

見学の日時を、お知らせください。施設案内、図書館の利用方法の説明、読み聞かせなどもいたします。

[小学校高学年向け図書]

他に、小学校低学年向け・中学年向け
中学生向けのページがある。

小学校高学年むき

ヘンリー・フランの誕生日
エレン・レヴァイン／作 カディール・キルソン／絵 千葉茂樹／訳
講木出版
¥1,900 え
978-4-7902-5194-1
小高 一般 小図

収録ヘンリーの小鳥のように自由になりたいという願いをかなえる方法は、自分を小包にして迷うこと。
27時間使い木箱の中で、声も立てずトイレに行く行かず耐えぬいた実在の人。力強く主張ある絵本。

ああ保戸島国民学校
小林しげる／作 野野富貴子／絵
文研出版
¥1,300 913
978-4-580-82064-7
小高 一般 小図

敗戦間近の1945年7月、大分県の保戸島の国民学校が爆撃され、授業を受けていた児童百数十人が犠牲になるという痛ましい歴史を基に戦争の悲惨さをえがいた話。小学生の目線で戦争の恐ろしさを体験できる。

あいたい
光丘真理／作 武田綾子／絵
文研出版
¥1,300 913
978-4-580-82065-4
小高 中学 一般 小図 中図

大好きな若女将の明子が突然亡くなり、悲しみのあまり声が出なくななる美妙「あいたい」という伝言の謡を解くため、明子の人生をたどる。障害を乗り越え、人々愛して明子の生き方を知った美妙の、心の成長物語。

風の靴
朽木祥／作 補服華奈子／挿絵
講談社
¥1,600 913
978-4-06-214994-5
小高 中学 一般 小図 中図

中学受験に失敗した少年、海生が、おじいちゃんのヨットで、親友とその妹と愛犬で出かける。海の上で、「ぼくが、風を見、風を聞き、風を読む。自分で進路を決めるんだ」と気づく。風に靴をはかせるのは、自分だと。

[教師向けメニューのQ&A]

▲このページのトップへ

学校の先生へ

調べ学習のために、図書館で本をさかして調べたい時

何に関する本をお探しか、お知らせください。図書館で本を集めておきます。団体貸出もできます。(ヶ月程度お貸します)

▲このページのトップへ

図書館職員に学校へ来てもらい、ブックトークなどをしてほしい

希望日時をお知らせください。読み聞かせ、ブックトーク、アニメーションなど、何をやるかご相談します。費用はかかりません。

くわしくは、下記の「ブックトーク＆読み聞かせ～その道の達人派遣事業へ」をごらんください。

▲このページのトップへ

館名 : 名古屋市鶴舞中央図書館

所在地 : 〒466-0064 愛知県名古屋市昭和区鶴舞一丁目1番155号

TEL : 052-741-3133

FAX : 052-733-6337

設置年 : 大正12年

設置主体 : 愛知県名古屋市

ホームページ : <http://www.library.city.nagoya.jp/>

利用者数 : 約31万人 (館外利用者)

蔵書数 : 約121万6千冊

貸出数 : 約86万5千冊 ※データは全て平成21年度のもの

